

### Ⅲ 部局別評価指標

#### 1 部局第二期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果

※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

##### (1) 教育に関する目標

###### 【総合学術博物館】

- 1) グローバル COE に事業推進担当者として参加し、本学リーディングプログラムとして最新 3D イメージングシステムを整備し、理学研究科と連携し専門教育コンテンツ開発を進めた。  
( - 1・( 2 ))
- 2) 最新 X 線 CT 等の専門教育カリキュラムでの活用、学芸員養成課程変更への対応として学芸員養成カリキュラム開発を進めた。( - 1・( 2 ))
- 3) 理学部協力講座を運営し、短期留学生プログラム、IGPAS 等の留学生プログラムに協力した。  
( - 1・( 2 ))
- 4) 自然史標本館常設展示更新を進め、本学理学研究科の専門教育カリキュラムでの活用促進を図った。本学基礎ゼミを実施し、全学教育カリキュラムでの標本等の利用を図った。山形大等の学外教育利用を図った。( - 1・( 2 ))

###### 【史料館】

全学教育カレントトピックス科目の一環として、学内他部局の教員と共同で「東北大学のひとびと」を平成 23 年度より継続的に開講し、教養教育の充実に貢献している。( - 1・( 2 ))

###### 【植物園】

###### 1) 植物園本園を利用した教育活動

植物園本園は、天然記念物「青葉山」という都市近郊にありながらまれに見る豊かな自然を有しており、この環境を生かして学内外から様々な実習（生命科学、地学、全学教育など）を受け入れている。2012年度にはのべ14回の講義・実習が行われた。また、小学校～専門学校、団体についても、植物および自然環境に関する34件の研修が行われ、植物園職員が解説を行った。

( - 1・( 2 ))

###### 2) 八甲田山分園を活用した教育活動

植物園の八甲田山分園は、八甲田山の山麓に位置し、80年の歴史をもつ高山地域の生態学研究・教育の拠点であり、現在教員1名により管理運営されている。八甲田山分園では、学内外からの学生実習の受け入れと支援を行っているが、高山地域に位置する同種の施設は、全国的にも数カ所しか存在していない。2012年度には、学内から2つの実習、学外の3大学（横浜国立大学、立正大学、東京情報大学）から3つの実習、および青森県中・高等学校理科野外講座を受け入れ、生物学、生態学の教育に貢献した。また同施設は、生命科学研究科グローバルCOE「環境激変への生態系適応に向けた教育研究」の重要な教育・研究拠点としても活用され、大学院生、研究者が滞在して研究を行っている。( - 1・( 2 ))

###### 3) 生態適応グローバルCOEへの参画

植物園長は生態適応グローバルCOEの拠点リーダーであり、植物園教員は各自の専門分野を生かし、同COEの教育に協力している。( - 1・( 1 ))

(2) 研究に関する目標

【総合学術博物館】

1) 特筆すべき研究として以下の成果があげられる。( - 2・( 1 ))

- ・学内共同利用設備として高解像度 X 線 CT システムを整備し、本学理学研究科及び海洋研究開発機構等と 3D イメージング技術応用研究を共同研究により進めた。
- ・国際研究プロジェクト IODP Expedition 342 に参加した。
- ・世界各国の MRC 機関で利用される国際放散虫データベース構築事業に参加した。
- ・若手研究者養成のための微化石サマースクールを開催した。
- ・MRC 研究集会を国立科学博物館と共催した。
- ・環境省モニタリング 1000 事業の福島県松川浦調査に参加した。
- ・3次元イメージングデータベース「e-Foram Stock」、貝類画像データベース、東北大学理科報告(地質学)記載標本データベースの構築公開を推進し、大学博物館連携自然史標本データベース構築に協力した。

2) 研究の実施体制等に関しては、以下の成果があげられる。( - 2・( 2 ))

- ・海洋研究開発機構と連携・協力に係る協定締結を理学研究科等と協力して実現した。
- ・福井県立博物館、産業総合研究所との連携・協力協定を継続し、積極的な人的交流を図った。
- ・外国人客員研究員 2 名を招聘した。
- ・米国スミソニアン自然史博物館と震災アーカイブ・自然史標本デジタル化及び教育活用を柱とする連携・協力協定締結準備を進めた。

【植物園】

1) 文部科学省「気候変動リスク情報創生プログラム」による高山植物の多様性減少に関する研究  
当該のプログラムに東北大学植物園として参画している。東北地方の高山帯は、他地域の高山帯に比べて低標高から始まるが、東北地方の山地はいずれも山頂の標高が低く、高山帯に生育する植物種は地球温暖化の影響を強く受けると予測される。八甲田分園を研究の中心地として、東北地方における高山植物の多様性保全の研究を推進中である。( - 2・( 1 ))

2) 絶滅の危機にある野生植物の保護に関する研究

我が国では 4 種に 1 種の野生植物が絶滅を危惧されており、そのような種の保護は喫緊の課題であるという社会的コンセンサスがある。これに応じて、絶滅危惧種の生物学的保全に関する研究を行っている。また、植物園の立地およびスペース上の利点を生かして、絶滅危機植物の生育地外保護を実際に進めている。特に、日本植物園協会と協力して、全国レベルでのネットワークを利用した現地外保全および、その技術開発に取り組んでいる。( - 2・( 1 ))

3) 植物園本園における研究支援活動

植物園本園では、天然記念物「青葉山」の希少な自然環境及び保有する生植物および植物標本を活用して、植物学のみならず様々な学問分野の研究支援と試料提供を行っている。学内 6 件、学外 4 件の研究調査、3 件の試料提供が行われた。また、2012 年 3 月に本園、八甲田山分園で行われた研究の報告会を実施し、異分野の研究間の情報交換を促した。( - 2・( 2 ))

(3) 社会との連携や社会貢献、国際化に関する目標

【総合学術博物館】

以下の企画展等による広報活動を行い、社会連携・社会貢献を進めた。( - 3・( 1 ))

- ・企画展「追悼・北杜夫どくとるマンボウ昆虫展@東北大学」(理学部自然史標本館；2012/4/28-6/12)、公開講演会(6/2)、ギャラリートーク(5/3)
- ・企画展示「東日本大震災・何が起こったその記録と解析」(片平エクステンション教育棟；2012/7/18-)
- ・企画展示「復興 南三陸町・歌津魚竜館・世界最古の魚竜のふるさと」(理学部自然史博物館；2012/7-)
- ・普及事業「南三陸は、魚竜化石の宝庫！」(南三陸町；2012/8/9-10)
- ・仙台市・光州広域市国際姉妹都市提携 10 周年記念企画展「氷河期の人類 - 石器と遺跡からみる仙台と韓国光州 - 」(仙台市地底の森ミュージアム；2012/12/8-12/24) 及び公開講演会(12/15、12/22)
- ・サイエンスカフェスペシャル「3.11 あのととき深海で何がおこった～地震の根源を探る地球深部探査船『ちきゅう』のたび」(川内厚生会館；2013/2/11)( - 3・( 2 ))
- ・河北新報フォーシーズンズ・シンポジウム「産業再生と近海に眠る夢の資源」(2013/3/2)

【史料館】

1) 「魯迅記念展示室」を活用した国際交流支援総務部広報課の連携( - 3・( 2 ))

本学の所蔵資料の国際的な情報発信およびそれに伴う知名向上戦略の一環として「魯迅記念展示室」を2011年7月より一般公開を行っている。同室を核に中国人研究者等を中心とする世界各地からの本学への訪問者の見学受け入れをおこなっている。

2) 展示会・公開講座等による社会教育等の実施( - 3・( 1 ))

所蔵資料およびそれをもとにした本学にかかる歴史情報の積極的公開のため下記8件の展示会を企画ないし実施した。

- ・本館常設展示：「歴史のなかの東北大学」
- ・本館常設展示：「魯迅と東北大学」
- ・企画展：「記録のなかの復興と再生」展、6/13～7/31
- ・企画展：「清風一過-大島正隆の歴史学と民俗学」、6/4-6/28
- ・企画展：大島正隆文書研究会との共催、於附属図書館本館、「史料館ただいま出張営業中」、11/19～12/16 於附属図書館本館
- ・ミニ展示等：「東北大学の卒業式-大正から平成まで」、3/26～4/13
- ・ミニ展示等：「日本有機化学研究のパイオニア 眞島利行資料展-日本化学会「化学遺産」認定記念」、4/17-5/2
- ・川内萩ホールギャラリー展示：「かわうち今昔物語」の企画・実施(植物園・埋蔵文化財調査室との共同)

3) 歴史公文書等の保存管理・公開体制の整備充実( - 3・( 1 ))

平成23年4月1日付けで施行された「公文書等の管理に関する法律」にもとづき、歴史的公文書の保存管理という視点から、本学公文書の適切な管理に関する助言、歴史的価値評価、移管文書の受入保存、公開にあたっている。平成24年度は保存期間満了予定文書約4,000点の評価及び満了済み文書約120点の受入をおこなうとともに、未整理となっている歴史公文書約600点の新規公開をおこなった。またあわせて、本館耐震改修工事の実施に伴う書庫の再整備をおこない、空調設備の導入など公文書管理法で求められている保存環境の整備をおこなった。

【植物園】

1) 日本長期生態学研究ネットワーク(JaLTER)への加盟 ( - 3・( 1 ))

長期生態学的研究の促進を目的とする、現地観測サイトのネットワークである JaLTER の準サイトに、東北大学植物園八甲田分園が、八甲田サイトとして登録され、国際長期生態研究ネットワーク(ILTER)を通じて、国際的な長期生態学的研究のネットワークに加わり、国際共同研究に参画することとなった。

2) 紅葉の賀のイベント開催 ( - 3・( 1 ))

植物園では11月3日(文化の日)に植物園、文学研究科と共催で、市民オープンキャンパス「紅葉の賀」を行った。当日は、植物園施設の無料開放、野点(植物園)、文学研究科と植物園の教員らが園内の植物・史跡を案内するガイドウォーク(植物園)、東北大学文学研究科教員による尺八演奏(植物園)、公開講演会(文学部第一講義室)、高校生のエッセーコンテスト(文学部第一講義室)を行い、多数の市民が参加した。

3) 公開市民講座 ( - 3・( 1 ))

自然史講座「熱帯の森を訪ねて」を全6回開講し、学内外から研究者を招いて講演を行った。また、植物画講座も2回開催した。いずれも多数の市民が参加した。

4) 植物園の日イベント開催 ( - 3・( 1 ))

植物園では5月4日(みどりの日)にイベント「みどりの日は植物園の日、植物園へ行こう！」(主催：植物園、後援：日本植物園協会)を実施した。当日は、植物園施設の無料開放、職員によるガイドウォーク、市民団体や東北大学リコーダーアンサンブルによるミニコンサート、雀踊りが行われ、366名の入園者があった。

5) 植物園ガイドツアー実施 ( - 3・( 1 ))

5月～7月にかけて職員による植物園内のガイドウォークを4回実施し、多数の市民が参加した。

6) 世界の研究機関との標本および種子交換 ( - 3・( 2 ))

世界の植物園では、自らのコレクションの充実を図るため、互いに種子および標本を交換する事業を行っている。本園もこのネットワークに参加しており、2012年度は、標本交換事業として、国内6カ所、国外1カ所から1539点の標本を受け入れ、国外7ヶ所、国外10ヶ所から計3859点を発送した。種子交換事業では23カ国、67研究機関に当園で採集した種子を研究試料として送付した。

7) 天然記念物「青葉山」の管理と公開 ( - 3・( 1 ))

植物園の一部は、国指定の天然記念物として指定されており、都市部に残る貴重なモミ原生林として維持、公開を行っている。近年、マツ枯れや震災・台風などによる土砂災害などが続いているが、文化財保護法にのっとった維持管理を行うと同時に、天然記念物としての価値を解説しながら公開を行っている。

8) 環境省モニタリングサイト1000事業への協力 ( - 3・( 1 ))

環境省のモニタリングサイト1000事業に協力し、東北地方の低地に特有の森林である青葉山のモミ林のモニタリングを継続している。この結果は、地球環境の変化が生態系にもたらす影響を早期に検出し、必要な対策をとるための基礎情報として貴重である。

9) 絶滅危惧植物生育外保全への協力 ( - 3・( 1 ))

環境省の絶滅危惧植物生育外保全事業の一環として、当園が所属する植物園協会と協力し、絶滅危惧種の種子採集・保存事業を青森県および宮城県において実施した。これらの種子は、保存

または各地の植物園において生育外保全として栽培され、また当園も本事業によって収集された種子を受け入れ、保全を行っている。

10) 木材標本データベース作製 ( - 3 - ( 1 ) )

木材標本庫を有する全国 5 大学、1 研究機関と連携し、科学研究費による木材標本データベースの作製と公開を昨年度に引き続き継続した。今年度は、多数のタイプ標本を含む木材化石標本の電子化を進め、公開する準備を整えた。

(4) 業務運営等に関する目標 (業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供、施設設備整備・活用、環境保全・安全管理、法令遵守、その他)

【総合学術博物館】

博物館学芸員を希望する学生の教育に活用するために博物館業務補助員として学生スタッフ制度を設けた。( )

【植物園】

1) 植物園来園者の安全を図る活動

植物園本園は、天然記念物に指定された原生林の公開を主な業務目的にしているため、通常の植物園よりは危険性が高く、入園者の安全管理には細心の注意が必要とされる。園路沿い、および市道周辺については、年 2 回松枯れ被害木の除伐を実施し、毎日の巡回時にも倒木監視に努めている。また、震災後は地盤の緩みにより土砂災害が発生しやすくなったため、大雨警報が発令された際には、適宜臨時閉園措置を行っている。平成 25 年度に入り、園内でツキノワグマが出没しているが、動物カメラを活用して、クマの行動について情報収集すると共に、入園者への情報提供、クマ鈴の貸し出しを通して入園者の安全管理を図っている。( )

(5) その他、部局第二期中期目標・中期計画に記載はないが、部局として重点的に取り組んだ事項

【総合学術博物館】

部局中期目標・計画にはないが、博物館では震災関連の業務を重点的に行っている。事項の「部局における東日本大震災への対応」の項目を参照。

【史料館】

1) 職員研修等への支援

本学職員研修に於いて「東北大学の歴史」(初任者研修 2 回) 初任者キャリアアップセミナー研修「公文書管理について」等の研修プログラムを提供し、職員の意識向上を図ることで本学の業務改善に対する貢献を行っている。

【植物園】

1) 冬期試験開園の実施

市民からの要望に応え、初めての試みとして、12 月 3 日～21 日まで、冬期試験開園を行った。期間中は、冬期用の対策(転倒防止処置など)を行うと共に、冬場の植物観察ポイントをパネル

展示し、好評を得た。

2) 夏休みお助け隊

7月14日～8月24日に小学生を対象とした植物に関する自由研究の相談、質問コーナーを設置し、多数の相談が寄せられた。